

# 八重山諸島の文化財

# 八重山諸島



鳩間島





**凡例**

	世界遺産
●	国指定史跡
▲	国指定名勝
●	県指定史跡
▲	県指定名勝
●	登録記念物
★	特別名勝

**道路凡例**

	国道		県道主要地方道		県道一般道		高速道路		市町村境界線
--	----	--	---------	--	-------	--	------	--	--------

## 川平貝塚

●指定年月日／1972(昭和47)年5月15日



川平貝塚は、石垣市字川平にある15～16世紀頃の\*グスク時代の遺跡です。

遺跡は、石垣島の北西の川平湾と崎枝湾の間を北に突き出た半島中央部に位置する、川平集落近くにある仲間岡・獅子岡と呼ばれている丘陵上にあります。

考古学上の調査は古く、東京帝国大学人類学教室の坪井正五郎博士の命により、1904(明治37)年に鳥居龍蔵によって発掘調査が行なわれており、土器が発見さ

れました。その土器は外耳(把手)が水平に付けられている特徴をもち沖縄本島以北の縄文土器とは別系統であることが指摘され、以後、\*外耳土器と呼ばれています。

遺跡は、丘陵の中腹から頂上一帯にあり、土器以外に、15～16世紀の\*陶磁器や\*石斧、凹石、叩石、石皿、貝皿、貝殻、獣魚骨などの自然遺物が出土しています。

沖縄で初めて遺跡調査された貝塚で、先島諸島の歴史を理解する上で大切な遺跡です。



## DATA

所在地：石垣市字川平仲間原



国指定史跡

## フルスト原遺跡

●指定年月日 / 1978(昭和53)年3月3日



フルスト原遺跡は\*ブスク時代の遺跡です。

遺跡は、石垣島南部の台地上に存在する大浜集落の北約200mの琉球石灰岩丘の台地の端、高さ約15mの所に位置し、規模は南北が約650m、東西が約140mです。

遺跡内には石積みの壁や15カ所の石囲いの\*遺構、城門跡などがあります。その他には崖下の岩陰にある墓や、石積みの墓も確認されています。また遺跡の西南端には、かつてこの地に祀られていた大石御嶽の祭祀遺跡も存在

しています。

石積みの規模の大きさや造り方は、他ではほとんど見られないもので、貴重な遺跡です。

伝承によると、15世紀末の八重山地方の豪族であったオヤケアカハチが住んでいたといわれています。沖縄本島の城跡と共通性を持つ反面、独自の性格を持ち、沖縄の歴史や文化を理解する上で、貴重な情報を提供するものです。



石垣石墓跡

## DATA

所在地：石垣市宇大浜フルスト、同カンド原

国指定名勝

## 宮良殿内庭園

●指定年月日／1972(昭和47)年5月15日



宮良殿内庭園は、1819(嘉慶24)年頃、当時八重山<sup>かぜい</sup>の\*頭職<sup>かぶしやく</sup>の地位にあった松茂氏八世<sup>まつも しほっせい どうえん</sup> 当演の時に作庭されたといわれています。屋敷内の木造瓦葺平家の東面の石垣<sup>もくぞうわらびきひらや</sup>に沿い、水を使わない枯山水<sup>かれさんすい</sup>(P154)を主とした庭園です。

琉球石灰岩を主な材料とし、五つの築山<sup>つきやま</sup>(P154)を北から南に向かって次第に低く築き、山の間には\*枯滝<sup>かたき</sup>を落とし、石の\*反橋<sup>そりばし</sup>を架け、\*岩島風<sup>いわしまふう</sup>に作庭しています。



## DATA

所在地：石垣市宇大川

開園時間：9時～17時

利用料金：大人 200円 小人 100円

(2018年3月現在)

また、前面は平らな砂地とし、<sup>ひさした</sup>庇下には左側に一群の岩を組み、右側に砂岩の蹲(手水鉢)<sup>さざん つくばい ちよう すぼち</sup>を置いています。山にはソテツやシュロなど、背後にはフクギを植えています。

この庭園は日本庭園の伝統様式<sup>どうしゆう</sup>を踏襲するもので、日本庭園文化の伝播<sup>でんぱ</sup>をみる上で貴重であると言えます。また、近世琉球における上流階級の屋敷の中で、現在残っている庭園の中では保存状態の良い庭園の一つで、作庭が行われた当時の様子<sup>ようす</sup>をよく残しています。なお、宮良殿内庭園は石垣氏庭園と同様に、城間親雲上<sup>いけまおんげん</sup>の作と伝えられています。



回遊するための道



反池

国指定名勝

いし がき し てい えん  
石垣氏庭園

●指定年月日 / 1983(昭和58)年10月27日

国  
名  
勝

石垣氏庭園は、1800(嘉慶5)年頃、当時八重山の\*頭職しよくの地位にあった石垣氏の祖先である、大浜親雲上おおはま べー せんの時に作庭された、水を使わない枯山水かれさんすい (P154) の庭園です。

琉球石灰岩を主な材料として、家屋の客室東側の石垣に沿って五つの集団石組みを北は高く、南に向かって次第に低くなるように築き、山の間かれたきに\*枯滝を落とし、石の\*反橋そりばしを架け、山は\*岩島風いわしまに作庭しています。

前面は平らな砂地とし、庇下ひでしたには左手に一群の石を組

み、右手に蹲つくばい ちよう ず ぼち(手水鉢)を構え、庭園の背後にフクギ、築山つきやま (P154) にソテツなどを配置しています。

この庭園の構成は宮良殿内庭園みやら どの ち ていえん (P136) とよく似ており、日本庭園の伝統様式とうりゆうを踏襲し、日本庭園の伝播でんぱんをみる上で貴重であると言えます。また、この地方の近世琉球における上流階級の屋敷の中で、現在残っている庭園の中では、宮良殿内庭園と並び作庭された時の特徴をよく残した保存状態の良い庭園と言えます。なお、石垣氏庭園は宮良殿内庭園と同様に、城間親雲上むらきま べー せんの作と伝えられています。



## DATA

所在地：石垣市字新川明用登

注意事項：個人宅のため一般公開されていません。



蹲(手水鉢)



築山

国指定名勝

## 川平湾及び於茂登岳

●指定年月日／1997(平成9)年9月11日



川平湾は、石垣島北西部に湾入しています。サンゴ礁特有の鮮やかな海の色と亜熱帯林に覆われた島影のコントラストが生み出す風景は、観光地としても著名です。琉球国時代には、\*馬艦船といわれる琉球の海上交通で利用された船舶の風待ちや、一次避難所として利用されたほか、八重山を代表する織物である「八重山上布」の布晒しが行われた場所としても有名です。また、湾の入り口付近に浮かぶ九つの小島（パナリ）には、それぞれ故事

や伝説にちなんだ名がつけられ、島の歴史や文化とも密接に関係しています。

於茂登岳は、沖縄県の最高峰（526m）であるだけでなく、その広大な山麓は、八重山固有の希少動物を育む亜熱帯の自然環境を良好に残しているほか、古来より信仰の対象とされ、現在でも八重山のみならず沖縄本島やその他地域からも礼拝者が訪れる地です。



## DATA

所在地：石垣市宇崎枝高田、宇川平、宇桴海太田、宇登野城高田、宇平得山田、宇真栄里、宇大浜、宇宮良パシタ及び宇川平地先の海面





## 仲本氏庭園

●指定年月日 / 2012(平成24)年1月24日



仲本氏庭園は、19世紀前半には<sup>かしらしょく</sup>頭職という要職も務めた士族である仲本家の屋敷に造られた庭園です。

八重山には庭造りに関する古文書「<sup>ていさくふしんしょ</sup>庭作不審書」などが伝わり、日本の庭園の伝統様式<sup>どうしゆう</sup>を踏襲し、庭園文化の<sup>でんぱ</sup>伝播をみる上で貴重な庭として、国の名勝に指定されている、<sup>みやらどうんちていえん</sup>宮良殿内庭園 (P136) と石垣氏庭園 (P137) が残されています。

仲本氏庭園もこれらによく似ており、主庭は敷地東部に



## DATA

所在地：石垣市字石垣

注意事項：個人宅のため一般公開されていません。

あり、家屋の座敷から見ると、北にあたる左方から正面へと次第に築山に (P154) 巨石を据えて、<sup>かたき</sup>枯滝を組み石橋<sup>か</sup>を架けた水を使わない<sup>かれさんすい</sup>枯山水 (P154) です。石材は主に琉球石灰岩であり、樹木はソテツやフクギなどが植えられています。作庭は19世紀中頃と<sup>ずいてい</sup>推定されています。

仲本氏庭園は庭園の材料や素材の配置などの地域的な特徴や、八重山における日本本土の庭園文化の伝播をみることのできる事例として、造園史上の意義が深いと考えられます。



う がん さき  
御神崎

登録記念物

●登録年月日／2015(平成27)年10月7日



国登録(名勝関係)

御神崎は屋良部半島にあり、海峡を挟んで西表島が見える風光明媚な景勝地です。切り立った崖を作り出している地質は野底層(新生代古第三紀始新世)の緑色凝灰岩です。また、断崖頂部の緩やかな傾斜面には強い潮風による海岸植物群落の草地が発達しています。

1647(順治4)年頃の制作と伝わる\*「宮古・八重山両島絵図帳」に「おかみ崎」と表記されますが、古謡などでは「うがんざき」と表記しています。また、岬の北側

約20mの海中に高くそびえ立つ緑色凝灰岩の岩島の頂部に、ブナリヌツブルイシ(姉の小石)と呼ぶ小さな岩があり、大酒飲みの弟を諫めようとした姉が逆に切りつけられ、その頭が動かぬ岩と化した民話があります。

このように、御神崎はその名の下に神が降臨する聖地として石垣島の人々の崇敬を集めるなど、石垣島の自然や歴史、伝統にゆかりの深い景勝地として親しまれています。



## DATA

所在地：石垣市手崎枝屋良部

## 美崎御嶽

●指定年月日 / 1956(昭和31)年2月22日



美崎御嶽は、字登野城にある御嶽で、地元では「オン」と呼ばれています。

尚真王の頃、登野城の美崎山に創建された航海安全を祈願するための御嶽でした。神名を「大美崎トウハ」、御イベ名は「浦掛ノ神ガナシ御嶽」と言い、その由来については、オヤケアカハチの乱（1500年）の時に首里王府派遣の兵船が那覇港へ安全に到着するよう祈願して、神女の真乙姥が籠ったところといわれています。



## DATA

所在地：石垣市字登野城

注意事項：御嶽内は神聖な場所です。むやみに立ち入らないようにしましょう。

御嶽の周囲は石垣に囲まれ、中央部には拝殿にあたるアーチの石門があります。石門の構造は、屋根石を架けて、棟中央に火炎宝珠を乗せており、規模こそ小さいですが、園比屋武御嶽石門と同じ形式だといわれています。この拝殿を「イビの前」と称し、その奥には石や岩、大木などがあり、そこをイビと称しています。

この御嶽は、王府より派遣された役人の離着任時や、農耕儀礼が行われる時などに、高官や上級神女の大阿母などによって拝されてきた歴史をもつことから、別名公儀御嶽とも称されます。現在は、字大川の村拜所として住民の信仰地となっています。



県指定史跡

## 平得アラスク村遺跡

●指定年月日／1981(昭和56)年8月13日



平得アラスク村遺跡は、先島先史時代後期の村落跡です。

遺跡は地城御嶽南方約200mの地点、道路北側のアラスク原と呼ばれる琉球石灰岩台地に立地しています。周辺には八重山式土器や中国産<sup>とうじき</sup>陶磁器などが散布しています。

伝承によると、現在の平得村落はその昔北方にあったというヘーギナー村というところからアラスク村、カジャフチ村、ナカンドウ村と村落を移動して、現在に至っています。



## DATA

所在地：石垣市宇平得中上原

るといわれています。また、アラスク村跡には石積み囲いの屋敷跡があり、<sup>ブシヤ</sup>武士屋と呼ばれていたと伝えられており、<sup>げんぞん</sup>現存する石積みがそれとされます。

1977(昭和52)年から1978(昭和53)年に宮良川<sup>かんがい</sup>国営灌漑排水事業のため破壊され始めましたが、住民の遺跡保存運動などによって、<sup>わす</sup>かろうじて村跡の中心と見なされる僅かな部分は保存されています。

八重山における村落の構造と変遷など、歴史を知る上で欠くことの出来ない重要な遺跡です。



とう さと おん だ い せき

県指定史跡

## 桃里恩田遺跡

●指定年月日 / 1990(平成 2)年2月2日



桃里恩田遺跡は先島先史時代後期の遺跡で、石垣島の東海岸、大里集落近くにある標高約 50 m の通称ペーフ山にあります。遺跡は石灰岩からなり頂上を中心に裾野の方まで広がっています。

1974 (昭和 49) 年に発見され、1976 (昭和 51) 年に発掘調査が行われています。出土遺物の約 8 割を占める土器のほとんどが、八重山式土器の特徴を持つ横耳把手がある鍋形土器です。壺形土器の出土は、わずか 4 点となっ

ています。土器以外では輸入した\*陶磁器や古銭、骨鏃、鉄釘、砥石、炭化した米・麦などが見つかっています。これらのほとんどが、14 ~ 15 世紀の沖縄本島の\*グスク時代に相当する遺跡であることが分かっています。

この遺跡は保存状態が良好であること、出土遺物が豊富なことから学術的価値が高いばかりでなく、14 ~ 15 世紀の八重山の歴史を理解する上で大切な遺跡です。



## DATA

所在地：石垣市宇桃里恩田、宇伊野田



## 下田原城跡

●指定年月日/2003(平成15)年3月25日



下田原城跡は日本最南端の波照間島の北海岸に面した標高約 25m の琉球石灰岩台地上に築かれています。北東方向に延びる断崖を利用して、人の頭よりやや大きい石灰岩の自然石を野面積み (P56) にした石垣に囲まれています。15 世紀から 16 世紀に城として機能していました。城跡は石垣に囲まれた複数の\*郭かく(くるわ)によって構成され、石垣は東西約 200 m・南北約 150 m にわたっています。

今から 500 年以上も古い時代から、現在まで改変や戦

災を受けずに、良好に\*遺構いこうが保存されています。このことから、古琉球から近世琉球までの歴史上重要な時期の様子を明らかにする上で、貴重な遺跡いせきです。



## DATA

所在地：竹富町宇波照間不登流茂知原、稲武知、西比矢

## 下田原貝塚

●指定年月日 / 1956(昭和31)年10月19日



下田原貝塚は、波照間島の先島先史時代前期の集落遺跡で、1954(昭和29)年3月に金関丈夫らによって発見されています。

遺跡は、島の北側に位置する大泊浜海岸に面した標高15～16mの砂丘地から内陸寄りの平坦地に広がっています。その東側に隣接して先島先史時代後期の大泊浜貝塚があり、下田原貝塚の東南側約300mには史跡下田原城跡があります。



## DATA

所在地：竹富町字波照間

これまでの発掘調査は、1954年、1958(昭和33)年、1983(昭和58)～1985(昭和60)年と複数回行われ、柱穴や\*炉跡、溝状\*遺構などが見つかっています。

出土した遺物には、石器や土器、\*骨製品、\*貝製品などがあり、石器は刃先のみを研いだ局部磨製の\*石斧が特に多く出土しています。また、八重山地方で最も古い下田原式土器が出土しており、見つかった土器には取手が付いている厚手と薄手のものがあり、砂粒が多量に混ざっています。なお、下田原式土器は、1969(昭和44)年にリチャード・J・ピアソン(プリティッシュ・コロンビア大学人類学教授)によって型式設定が行われました。



県指定史跡

## 仲間第一貝塚

●指定年月日／1956(昭和31)年10月19日



仲間第一貝塚は、先島先史時代後期の集落遺跡で、1955(昭和30)年に発見されました。

遺跡は、西表島の東部に位置する仲間川河口付近に架かる仲間橋を通過した直後、標高5~6mの低砂丘地にあります。過去に県道工事や架橋工事で遺跡の一部が破壊されています。

1955年に小規模な試掘調査が行われており、72cmの貝層の最下部から鉄製の船釘が発見されています。また、



## DATA

所在地：竹富町字西表

1958(昭和33)年には早稲田大学八重山学術調査団によって発掘調査が行われ、局部磨製の石斧や磨石、叩石などの石器が出土しています。

本遺跡の時代については、土器が一片も検出されなかったことから、無土器の遺跡として報告され、近接する仲間第二貝塚(p147)より古い時期の遺跡と考えられていましたが、石垣島の無土器遺跡(神田貝塚や大田原遺跡など)の年代測定から、仲間第二貝塚より新しい遺跡であることが明らかになりました。



仲間第一貝塚の近景



## 仲間第二貝塚

●指定年月日 / 1956(昭和31)年10月19日



仲間第二貝塚は、先島先史時代前期の遺跡で、1955(昭和30)年に多和田真淳によって発見された遺跡です。

遺跡は西表島の東部に位置する仲間第一貝塚(P146)の北方約100mの地点にある標高5~6mの微高地(低地より少し高くなった場所)に形成され、以前ここには旧仲間集落がありました。仲間第一貝塚と湿地帯を挟んで形成されていますが、仲間第一貝塚が砂丘地に形成されているのに対して、この遺跡は赤土が広がっている部分



## DATA

所在地：竹富町字西表

に形成されています。

1958(昭和33)年に早稲田大学八重山学術調査団の試掘調査の結果、ヒレジャコ・シレナシジミなどの貝殻やイノシシの骨などをはじめ、石英・長石が多量に混入し、牛角状把手を有する下田原式土器や局部磨製の\*石斧、\*磨石、叩石などの石器が出土しています。

仲間第一貝塚と同様に1956(昭和31)年10月19日に琉球政府指定埋蔵文化財に指定され、沖縄が日本に復帰した後に県の指定史跡となっています。



## 平西貝塚

●指定年月日／1956(昭和31)年10月19日



平西貝塚は、15～16世紀頃の\*ブスク時代の集落遺跡で、1955(昭和30)年に多和田真淳によって発見された遺跡です。

遺跡は西表島の古見集落の東北約500mに位置する平西島にあります。島の大きさは、周囲約600m、標高約15.6mで、干潮時には歩いて渡れます。遺跡は、島全体に広がり、周辺の海岸に遺物が散布しています。

1958(昭和33)年に早稲田大学八重山学術調査団が



## DATA

所在地：竹富町宇古見

島の西側地域で発掘調査を行っています。調査の結果、層序は地山を含めて5層確認されており、Ⅱ層(黒色混土貝層：黒色の土と貝が混ざった層)・Ⅲ層(褐色混土貝層：褐色の土と貝が混ざった層)とⅣ層(混灰貝層：灰と貝が混ざった層)が\*遺物包含層です。

出土遺物は、\*外耳土器と呼ばれる浅形土器が多く、壺形土器は極端に少なくなっています。それ以外に14～15世紀の中国産\*陶磁器や\*褐釉陶器、\*貝製品などが出土しています。貝層からイシカゲガイを主体にクモガイやヒメジャコ、シレナシジミ、リュウキュウサクラガイなどの貝殻も出土しています。

にし とう お ん

県指定史跡

## 西塘御嶽

●指定年月日 / 1959(昭和34)年12月16日



竹富町字竹富東屋敷にある、西塘の墓と旧屋敷の敷地を西塘御嶽と呼びます。

墓は縦 4.5m、横 6.6m の長方形で、約 1.5m の高さに石灰岩で積み廻らし、墓口がなく、上部は石で覆われています。

西塘は、1500(弘治13)年に尚真王がオヤケアカハチを征伐の際、王府軍の総大将大里親方にその非凡の才能が認められ首里王府に招かれました。1519(正徳

14)年に園比屋武御嶽(P83)の石門を築造した功績により、1524(嘉靖3)年に八重山の頭職として竹富大首里大屋子に任じられています。そこで蔵元(P150)を竹富島に創設して八重山を統治しましたが、1543(嘉靖22)年に石垣島へ蔵元を移転しています。西塘もまた石垣島へ移って政治を執り、6年後に石垣島で死去しています。一時、石垣島に仮埋葬していましたが諸役人の協議によって郷里竹富島の旧屋敷内に墓を造り、そこへ改葬されました。

この墓の一部は、首里の園比屋武御嶽を築いた余りの石を運んで来て使用したと伝えられています。



## DATA

所在地：竹富町字竹富東屋敷

注意事項：御嶽内は神聖な場所です。むやみに立ち入らないようにしましょう。



## 蔵元跡

●指定年月日／1959(昭和34)年12月16日



竹富島にある蔵元跡は、16世紀初期に園比屋武御嶽そのひやんうたき(P83)の石門いしもんを創建した功勞により、八重山の\*頭職かしやくとして竹富大首里大屋子たけとみおおしゅりおおやこに命じられた西塘にしとう(P149)が、八重山を統治するために創設した政庁まつせつ(役所)の跡地です。最初に八重山を統治した官庁の跡地として重要であることから指定されました。

竹富は土地が狭く、港の水深も浅いため、海上交通の要地としては適していませんでした。そのため、政庁とし

ては不便な場所であるという理由で、1543(嘉靖22)年に石垣島の大川いせつに政庁を移設したとされています。したがって竹富島の蔵元は、およそ20年間続いたといわれています。

現在、約661m<sup>2</sup>の屋敷跡と、高さ約1.5m程の野面積みのづら(P56)の石垣が東と南に残っています。建物の位置や大きさは分かっていません。また、蔵元跡の東側に隣接して、当時の鍛冶屋跡かじやあとが残っています。



## DATA

所在地：竹富町字竹富志登保原



国指定名勝

くぶら およ くぶら  
久部良バリ及び久部良フリシ

●指定年月日 / 2014(平成26)年3月18日

国  
名  
勝

日本の最西端の与那国島の北西岸には久部良バリと呼ぶ深い断層崖の亀裂と、久部良フリシと呼ばれる独特の海浜景観があります。

久部良バリは全長約 15 m、幅約 3.5 m、深さ約 7 m の規模で、首里王府による\*人頭税の負担にあえいだ島人たちが妊婦に崖を飛ばせて胎児とともに死に至らしめたという伝承を生み、近世の与那国の社会を考える上で深い意義を持っています。一方、久部良フリシは\*八重山層群

の砂岩の上に、堅い琉球石灰岩からなる琉球層群が覆う構造です。波の浸食で凹部が形成された緑色及び紫褐色の砂岩の急崖からなる風致景観は独特かつ秀でています。

海岸では旧暦4月に稲穂の害虫の駆除ために、虫の霊を海の彼方の理想郷・アンドゥヌチマへ送るフーヌムン(穂物忌み)の儀礼が行われており、その独特の趣ある景観とあいまって、与那国島の精神文化を知る上で重要な意味を持っています。



## DATA

所在地：与那国町宇久部良

国指定名勝

## ティンダバナ

●指定年月日／2014(平成26)年10月6日



(写真:与那国町教育委員会提供)

ティンダバナは、与那国島にある景勝地の一つで、断層でできた崖が交差して形成された突端部の地名です。島に固有の伝承・儀礼に彩られた石・洞穴などからなる、趣ある景色をもっています。頂部の標高は85m、垂直に切り立った琉球石灰岩の厚さは約20mです。下層の緻密な八重山層群を浸食して随所に凹地形（ノッチ）を形成し、天井部に八重山層群からできた直径1m以上の巨大な岩塊も見られます。



## DATA

所在地：与那国町字野武原

ティンダバナには、15世紀末期に与那国島を統治したとされる女傑サンアイ・イソバの居住地であったとの伝承があります。また、イヌガンと呼ばれる凹地形にまつわる伝説として、久米島から王府へ向かった貢納船が当時無人島であった与那国島に漂着し、乗船者のうち生き残った女性1名と同乗の雄犬1匹が棲んでいたとの犬祖伝説もあります。

古来、清浄で豊富な湧水を生む岸壁とその周辺は島民の重要な儀礼の場となっています。その独特の景観は島の精神文化を知る上で重要な意味を持っています。



湧水



イヌガン

県指定名勝

# サンニヌ台<sup>だい</sup>

●指定年月日 / 1974(昭和49)年4月25日



サンニヌ台は、与那国島の東部（祖納）<sup>そない</sup>にあつて、東崎<sup>ウチサキ</sup>から立神岩<sup>タチガミ</sup>の間にある島随一<sup>すいいち</sup>の景勝地です。砂岩と泥岩が交互に積み重なった地層（\*八重山層群）が長年にわたり、波風による風化・浸食作用を受けた結果できた奇岩が多く高くそびえ立っています。この付近の地層は軟らかく崩れやすいため、断崖<sup>たんがい</sup>が発達しやすく、その断崖絶壁<sup>がいぜつぺき</sup>には太平洋の荒波が打ち寄せています。加えて、この付近には断層が走り周囲から一段高くなっていること

から雄大な自然景観をつくっており、その美観は比類ないほどです。

また指定地の外側には、神聖な岩と知られている頓岩<sup>とんがん</sup>（頭を地面につけて礼をする程に神聖な岩）<sup>ほど</sup>、別名立神岩と呼ばれる岩があり、島の人たちから神聖な岩としてあがめられ心のよりどころになっています。この岩は、王府編集の説話集「遺老説伝」<sup>いろうせつでん</sup>の中にも「与那国の頓岩」として記載されています。



## DATA

所在地：与那国町字阿陀尼花

注意事項：2018年3月現在、立ち入りができません。



①サンニヌ台の八重山層群

②タカオラ  
(岩盤の表面に形成される風穴)

(写真①②:与那国町教育委員会提供)

～琉球庭園の中の枯山水～

沖縄県内には琉球国時代に作庭された庭園があります。それらの庭園は日本庭園とは異なり、「琉球庭園」と呼ばれています。琉球庭園とは日本庭園の様式を基本構成として全体の調和を取り、これに中国庭園などのさまざまな庭園の様式を取り入れ、琉球の素材と風景を加味したものです。

日本庭園にはさまざまな庭の造り方（作庭）がありますが、このコラムでは日本庭園における作庭様式である「枯山水」（図1）を見ながら、代表的な琉球庭園の一つである「石垣氏庭園」（図2）の特徴を鑑賞しましょう。

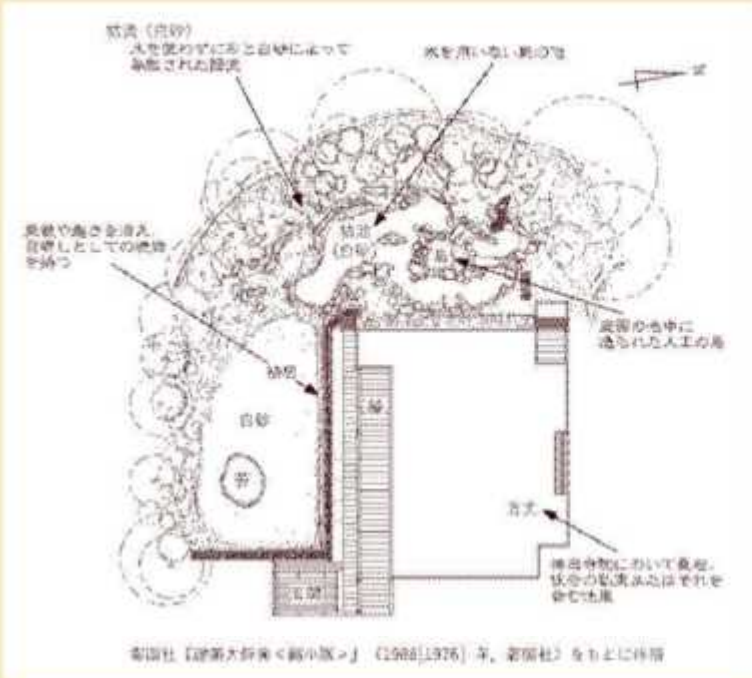


図1 枯山水



図2 石垣氏庭園

「枯山水」とは水を使わずに石と白砂と少しばかりの苔や灌木（低木のこ）を加えて造られた庭園で、多くの場合、滝や川の流れ、海などの表情を表しています。石垣氏庭園 (P137) も水を使わずに琉球石灰岩や海砂などで海や川などの趣のある風景を造り出し、一見すると日本庭園の枯山水のように見えます。しかし、置燈籠の形や色彩、険しい山並み、石組みの中央にある「洞窟石組み」などの細部は日本庭園とは異なった特徴を見ることができます（写真1）。また、石組みの背後には沖縄の屋敷に防風林として使用されるフクギや、海岸の石灰岩地などに自生するソテツなどを植栽することによって日本庭園の枯山水にはない独特の雰囲気を作り上げています。



写真1